

7841 ^{kuraku}久楽 東海道 53 次 : 舞坂宿から次へ 366

.....



山はみどり 野に花 人にはこころ

弁天島と天女

昔、弁天島のこの廻りは砂洲が新居の橋本廻りまで続き、白砂青松「天の橋立」のような風景が広がっていました。そんな弁天島の美しさに誘われてか、ある日天女が舞い降りました。村人は大変喜び、社を建てるからここに留まってほしいとお願いました。ところがどういふわけか、天女は駿河の三保の松原へ立ち去って行きました。

それから長い年月がたち、この廻り一帯は大きな災害にみまわれ、洲崎の一部であった弁天は湖にとり残されて島となりました。その後、舞阪と新居の間は渡船で行き来するようになりましたが、江戸時代の文永六年（西暦一七〇九年）今切渡海安全のため、この島に辨天神社が建てられました。人々は天女伝説のこともあり、この神社を大切に守りしてきました。御祭神は「市杵島姫命」といい、海上・交通・家内安全、商売繁盛など諸願成就の神として多くの人々に信仰されています。なお、境内には額名湖弁天島を詠んだ正岡子規、茅原華山、松島十洲の文字碑があります。

